

**製品名: UQCRC2 (11W16) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe19641**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | 組換えウサギモノクローナル抗体  |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,FC,IP  |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | モノクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50 |
| 分子量  | 48kDa   |

**抗原情報**

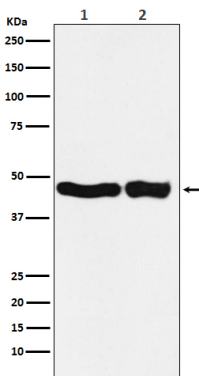
|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | UQCRC2  |
| 別名           | Core protein II; QCR2; mitochondrial; Ubiquinol cytochrome c reductase core protein II; UQCRC2; Uqcrc2; |
| 遺伝子 ID       | 7385.0  |
| SwissProt ID | P22695  |
| 免疫原          | ヒト UQCRC2 の合成ペプチド   |

## 背景

これは、ミトコンドリア呼吸鎖の一部であるユビキノール-シトクロム c 還元酵素複合体 (複合体 III またはシトクロム b-c1 複合体) の構成要素です。コアタンパク質 2 は複合体の組み立てに必要です。ユビキノール-シトクロム c 酸化還元酵素の構成要素であり、酸化リン酸化を促進するミトコンドリア電子伝達系の一部であるマルチサブユニット膜貫通複合体です。呼吸鎖には、コハク酸脱水素酵素 (複合体 II、CII)、ユビキノール-シトクロム c 酸化還元酵素 (シトクロム b-c1 複合体、複合体 III、CIII)、およびシトクロム c 酸化酵素 (複合体 IV、CIV) の 3 つのマルチサブユニット複合体が含まれており、これらが協力して NADH およびコハク酸から生成された電子を分子状酸素に伝達し、膜貫通輸送および ATP 合成酵素を促進する内膜上の電気化学的勾配を作り出します。シトクロム b-c1 複合体は、ユビキノールからシトクロム c への電子伝達を触媒し、この酸化還元反応をミトコンドリア内膜を介したプロトンの転座と結び付けます。プロトンはキノール上の水素原子として膜を通過します。Q サイクルと呼ばれるこのプロセスでは、マトリックスから 2 つのプロトンが消費され、4 つのプロトンが膜間腔に放出され、2 つの電子がシトクロム c に渡されます (類似性による)。2 つのコアサブユニット UQCRC1/QCR1 と UQCRC2/QCR2 は、それぞれ 2 つのミトコンドリアプロセッシングペプチダーゼ (MPP) サブユニット  $\beta$ -MPP と  $\alpha$ -MPP と相同性があり、MPP プロセッシング特性を保持していると考えられます (類似性による)。複合体 III に組み込まれると、UQCRC2 を成熟した Rieske タンパク質とそのミトコンドリア標的配列 (MTS)/サブユニット 9 に in situ 処理することに関与している可能性があります (可能性が高い)。

## 研究分野

## 画像データ



(1) HEK293 細胞溶解物、(2) マウス腎臓溶解物における UQCRC2 発現のウエスタンブロット解析。